

うんなん



『子ども(地域)食堂』の
取り組みが広がっています



はぐもぐ食堂



みんなの食堂「ほほ笑み」



ほほえみこども食堂



dan-ran食堂



わいわい食堂

現在、子ども食堂は全国各地で展開されており、島根県内には117か所^{※1}、雲南市内にも5か所^{※2}
設置され居場所の輪が広がっています。(関連記事5ページに掲載)

※1 (10月末現在：島根県社協調べ) ※2 (12月末現在：雲南市社協調べ)

主な内容

- P.2 年頭のあいさつ・被災地支援職員派遣報告
- P.3 音訳ボランティア研修会・赤い羽根共同募金・収集ボランティア
- P.4 障がいへの理解・介護の入門的研修・民児協全員研修会
- P.5 法人連絡会研修会・子ども食堂・居場所づくり研修会のお知らせ
- P.6 評議員交代のお知らせ・地域のお宝・令和6年度寄附お礼ほか



明けまして

おめでとうございます

皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃より、雲南市社会福祉協議会の各種事業活動推進に温かいご支援とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、地域福祉を取り巻く環境は急速な人口減少の中で少子高齢化による様々な場における担い手不足、生活課題や諸物価の高騰に伴う生活困窮など複合的課題が山積する一層厳しい状況であり、本会が実施しております「緊急現金貸付事業」や「フードバンク事業」等は例年の実績を大幅に上回る現状となっています。

このような中、本年度策定を行う「第5期雲南市地域福祉活動計画」において「地域共生社会の実現」に向けた施策は、本会と行政、関係機関とのパートナーシップはこれまで以上に重要になると考えられます。そこで策定に向けては、多くの機関が担う役割や機能について盛り込んだ実施計画づくりを進めて参ります。

そして、改めて地域福祉を推進する中核的機関として、経営理念『市民誰もが自分らしく輝き支え合う福祉のふるさとづくり』の具現化に邁進、地域のご期待に応えて参ります。この理念の実現に向けては、行政や地域自主組織、また関係機関・団体等との一層の連携強化とともに、市民の皆様が地域福祉活動への主体的な参画は、欠かすことのできないものであります。

本年も雲南市の地域福祉推進のため、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とします。

令和七年元旦

社会福祉法人雲南市社会福祉協議会

会長

秦 和夫
役員 一同

能登半島豪雨

— 職員派遣1名 —



▲連日100人を超えるボランティアが支援に訪れる「輪島市災害ボランティアセンター（拠点）」の様子



▲地震と豪雨の両方の災害を受けた建物

輪島市災害ボランティアセンター支援報告

※輪島市の状況

- ・平成18年に旧輪島市と旧門前町が合併
- ・人口は25,903人
- ・高齢化率は46.3%（共に令和2年国調結果）



石川県輪島市においては、令和6年1月1日に発生した地震により、輪島朝市の火災など大きな被害がありました。復興に向けゆっくと進み始めていた矢先、同年9月20日からの「令和6年能登半島豪雨」により、更なる被害を受ける事態となりました。そうした中、地元社会福祉協議会が中心となり「災害ボランティアセンター」（以下「災害VC」）の運営が続けられています。

災害VCでは、災害による生活上の困りごとを抱えた方からの相談をお聞きするとともに、被災地の力になりたいという思いを持ったボランティアを受け入れ、困りごとの解決に向けて、ボランティア活動を調整しています。

雲南市社会福祉協議会からは11月に職員1名を派遣し、被災地輪島市の災害VC支援を行いました。

水害の復興にはまだ時間がかかりそうです。それと同時に心の支援を続けることも大切になりますので、特産品の購入やSNSで現状を知る等、雲南市に居てもできる間接支援を続けながら、被災地の皆さんが一日も早く心穏やかに過ごせる日々を迎えられることを願っています。

音訳ボランティア研修会

研修会の様子▶



11月30日（土）三刀屋健康福祉センターを会場に市内約25名のボランティアさん出席のもと研修会を開催しました。この研修は、①技術を高めること、②他実践者とのつながりをつくること、③活動に対するやりがいを感じてもらふこと等を目的に毎年開催しています。講義後は地区を越えて悩みや今後の取り組み方等について情報共有し交流を深めました。

参加者からは「自分の活動を振り返る良い機会になった」、「今後の活動の励みになった」等、様々な感想をいただきました。

赤い羽根共同募金

募金ボランティア ありがとうございます



10月1日に全国一斉にスタートした赤い羽根共同募金運動では、市内の各イベント会場等において、地域自主組織関係者や小中高校生ボランティアの皆さんによる募金活動が活発に行われています。



▲10/13掛合町ふるさとまつり
(掛合中学校生徒の皆さん)



▲11/10塩田地区ふれあいまつり
(塩田地区振興会)



▲12/1雲南市民歳末余芸大会
(三刀屋中学校生徒の皆さん)

どうやって
集めたらいいの？

収集ボランティアの紹介

集めたものは
どうなるの？

私たちの身近にある物を集めるだけで簡単・気軽にはじめることができるボランティアです。
皆様の思いを大切に受け取りつなぎます。

古切手 (使用済み)



切手に押してある消印ごと切り取ってください。日本(普通・記念)はもちろん、海外のものでも構いません。
※切り取り前の封筒のままだでも構いません。

プリペイドカード (ワオカードなど)



日本の景色や動植物・乗り物、アニメなど…
デザインの入っているものが対象です。度数が残っているものや、未使用でも構いません。

ベルマーク

私たちの身近な商品についています。
点数を切り取り集めてください。



これらは NPO法人 誕生日ありがとう運動本部 へお送りします。分類・整理され、商品として生まれ変わります。商品はバザーなどで販売され、福祉活動の資金になります。

プルタブ (アルミ)

空き缶から、プルタブを切り取ってください



※プルタブはすべてアルミ製です

一般社団法人 環公害防止連絡協議会 へ送付します。合計800kg集めると車いすと交換してもらえます。交換した車いすは、市内の福祉施設へ寄付いたします。



現在750kg

障がいへの理解の輪を広げ、 誰もが安心して暮らせる 地域を目指します

地域に暮らす全ての人が地域の一人として相互に支え合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進を目的に、今年度から「障がいを学び誰もが安心して暮らせる地域づくり推進事業」に取り組んでいます。

7月には全地域自主組織を対象に「障がいの理解を深める学び合い会議」を開催しました。その後10月には、この事業に取り組むことになった市内5つの地域自主組織を推進地区に指定し、連絡会を開催しました。

連絡会では、各種障がいの特性や必要な配慮を学ぶ「あいサポーター※研修」を行い、障がいへの理解を深めるとともに、これから取り組む事業の確認や進め方などを話し合いました。

今後は、地域自主組織を中心に行政・市内の社会福祉法人・社協などが協力し合いながら、障がいの理解の輪を広げ支え合う地域づくりに取り組んでいきます。



連絡会（10/31）：意見交換の様子

※「あいサポーター」とは

障がいの特性や必要な配慮を理解して、障がいのある人を手助けする人のこと。



令和6年度 介護の入門的研修

「介護の入門的研修」を三刀屋健康福祉センターにて、10月18日から20日までの3日間、雲南市、奥出雲町、飯南町から15名の皆様にご参加いただき開催しました。

この研修は、雲南広域連合より委託され、講師等は雲南圏域内の介護現場などで活躍されている皆様にご協力いただきました。

内容は、テキストによる講義ばかりではなく、事業所の理念を実践するために努力されているお話や最新の福祉用具を使った介護体験、腰痛を予防するための方法、高齢者疑似体験では日常の生活の場面での不自由さを体験しました。

研修会に参加された受講生の皆様の感想…

「人ごとではなく、自分が老いることへの準備を始めるきっかけになった」

「家族のために介護を学びに来たが、障がいの話を聞いて、声かけの配慮などとても参考になった」など多くのご感想をいただき、積極的に明るく元気に3日間の研修会に取り組んでいただきました。

受講の理由は様々でしたが、この研修会で学べたことが、ご家庭で、地域で、介護の現場でお役に立てば幸いです。



雲南市民生児童委員協議会 研修会



雲南市民生児童委員協議会（会長 多賀静香）では、10月28日（月）雲南市大東古代鉄歌謡館で全員研修会を開催し、民生委員・児童委員および主任児童委員など約130名が参加しました。

当日は、雲南市議会 教育民生常任委員会委員長（現・副議長）原 祐二様をはじめ委員会所属の議員の皆さまにもご出席いただきました。

講演は、島根県立三刀屋高等学校掛合分校 副校長 小川 剛氏から「時代が掛高に迫いついてきた！」～閉校の危機を乗り越えて～と題しお話いただき、研修後半は、吉田地区および加茂地区の民生児童委員協議会が実践発表をしました。参加者からは「掛高の教育内容がよくわかった」「掛高は貴重な学校で、なくてはならないと思った」「他地区の活動を参考にしたい」等多くの感想が寄せられました。

「居場所づくり」研修会を開催しました

～雲南市社会福祉法人連絡会主催～

10月9日、「居場所づくり」研修会が「雲南市社会福祉法人連絡会」（会長 白根康久）の主催により三刀屋健康福祉センターで開催され、行政職員や連絡会を構成する市内社会福祉法人などから23名が参加しました。

研修会では島根県社会福祉協議会の子ども食堂コーディネーターが講師となり、参加者はひきこもりや不登校、孤食、塾がない、地域との交流の場がわからないといった課題を解決する仕組みとして県内で取り組まれている子ども食堂や高齢者サロン、学習支援などの「居場所づくり」の状況やその大切な役割などについて理解を深めました。

法人連絡会では地域社会へ貢献するための取り組みとして「身近でなんでも相談ネットワーク事業」を展開しています。今後はこの研修で得た知識を活かしていきたいと思います。



▲ 受講中の参加者のみなさん

子ども(地域)食堂とは？



子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂。「地域食堂」「みんな食堂」という名称のところもあります。困難を抱える子どもたちへの支援を中心に取り組むもの、「地域食堂」・「みんなの食堂」等の名称により、子どもたちに限らず地域の住民の方を含めて対象とし、食育や交流団らん、地域における居場所の機会を提供するもの、いろいろな意義を持ち取り組まれています。(参照：むすびえHP)



雲南市内の状況



令和6年12月末現在

dan-ran食堂（加茂町）

運営：dan-ran食堂
開催場所：加茂交流センター（毎月1回
土曜日また日曜日のいずれか）※チラシ等でお知らせ
対象者：どなたでも
料金：子ども100円、大人200円

はぐもぐ食堂（木次町）

運営：産前産後ケアはぐ
開催場所：石照庭園
対象者：市内住民誰でも
料金：子ども100円、
大人200円

わいわい食堂（木次町）

運営：わいわいクラブ
開催場所：三新塔交流センター（夏休み、
冬休みの長期休み期間中）
※地域自主組織が行うイベン
ト時共催も有
対象者：三新塔地区住民
料金：子ども100円、大人200円

みんなの食堂「ほほ笑み」（三刀屋町）

運営：三刀屋地区まちづくり協議会
開催場所：みとや世代間交流施設ほほ笑み（毎月第4日曜日）
対象者：三刀屋地区住民
料金：子ども100円（18歳未満）、大人300円

ほほえみこども食堂（三刀屋町）

運営：社会福祉法人 有隣会
開催場所：みとや世代間交流施設ほほ笑み（毎月第3日曜日）
対象者：三刀屋町内の18歳以下の子ども及び地域住民
料金：子ども100円（18歳未満）、大人300円

参加者募集中！

「居場所からはじめる地域共生
社会の実現」を考える研修会
～子ども(地域)食堂を知る～

居場所づくりに興味のある方

食堂に携わっている方

これから食堂を始めたい方

日時：令和7年2月25日（火） 13：30～15：30（予定）

場所：チェリヴァホール 3階大会議室

※どなたでもご参加いただけます。右記QRコードからお申し込み
ください。

※研修終了後は、講師等を交え「情報交換会」を行います。



新評議員就任のお知らせ

この度、選出機関の役職交代に伴い、下記のとおり評議員に就任されました。

◆ 評議員

(敬称略)

任 期	選 出 区 分	氏 名	役 職 等
令和6年12月9日から令和7年6月に開催の定時評議員会の終結の時まで	関係の行政機関	上代 和美	雲南市議会教育民生常任委員長



伝統芸能が 人と人をつなぎ、 地域を豊かに



今回のお宝は、吉田町田井地区に根ざした伝統芸能「深野神楽」を守り、継承している“深野神楽保存会”を紹介します。

弘化3年（1846年）の神能記にも記されている歴史ある深野神楽は、地域の活性化・集いの場づくりの役割も担いながら田井地区に浸透し、まさに地域のお宝として親しまれています。

深野神楽の始まりは江戸時代。大正前期にいったんその姿を消しますが、70年の時を経て復活の気運が地域内で盛り上がり、昭和61年に深野神楽保存会が新たに結成されました。

現在の会員は25名。10代～80代までの幅広い年代が集まっています。また、平成15年からは後継育成にも力を入れ、「深野神楽こども教室」を開講し、現在は小・中学生の7名が参加しています。子ども達にとって神楽は、伝統芸能にふれる機会を持つとともに、地域の大人とふれあえる大切な場となっています。会員の中には神楽を忘れることができず、大人になってからUターンで戻ってくる卒業生もあり、地域の活性化にも繋がっています。

そして、神楽保存会やこども神楽教室の発表の際には地区内の多くの人が集まり、地区全体の寄り合いの場になっています。これからも伝統芸能を継承しながら、神楽を通じた“つながりづくり”を大切に、会員と住民が一緒になって「地域を笑顔に」「地域を豊かに」できるよう取り組まれます。

地域のお宝とは 地域の中には「普段の暮らしの中で気にかける関係」があり、また「見守り活動」「サロン活動」とは呼ばれていないけど、皆が無意識に行っている大切な「**支え合い活動（つながり）**」＝“お宝”がたくさんあります。そして、この“お宝”には、大きな意味と価値が含まれています。

地域のお宝の情報がありましたら、地域福祉部または右記QRコード（二次元コード）までご連絡をお待ちしています。



市外局番（0854）
大東支所 …… TEL 43-5610
加茂支所 …… TEL 49-7306
木次支所 …… TEL 42-9080
吉田支所 …… TEL 74-0078
掛合支所 …… TEL 62-1121

ご寄贈ありがとうございました（令和6年12月受付分まで）

★「デイみとや」「三刀屋保育所」へ 玄米30kg×2袋 …… 松谷 和夫様
★「えがの里ユニット」へ
ズレないクッション2個 加湿器超音波式3台 …… 寺本 利明様